

第二回高校生国際シンポジウム 実施報告書

大会概要

- 1 主催 高校生国際シンポジウム実行委員会
(一般社団法人 Glocal Academy, 鹿児島県立甲南高等学校)
- 2 主管 鹿児島県立甲南高等学校
- 3 後援 鹿児島県教育委員会, 鹿児島市教育委員会 (予定)
- 4 協賛 公益財団法人 船井情報科学振興財団
株式会社 新興出版社啓林館, 株式会社 JTB 九州
- 5 テーマ 21世紀に生きる我々は、より良い未来を実現するために何をすべきか
- 6 目的 日頃の研究成果をプレゼンテーションやポスター発表としてまとめ、生徒が自らの考えを発表するとともに、生徒間の交流を深めながら今後の課題研究を進めていく指針を得る。
- 7 期日・会場 平成29年2月3日(金), 2月4日(土) サンエールかごしま
〒890-0054 鹿児島県鹿児島市荒田1丁目4-1
- 8 日程

【1日目】2月3日(金)		【2日目】2月4日(土)	
受付	10:00~10:30	受付	10:00~10:30
開会行事	10:40~11:10	研究発表コンテスト	10:30~11:30
基調講演	11:15~11:45	・プレゼンテーションの部	
昼食	11:45~12:45	・ポスター発表の部	
パネルディスカッション	12:45~14:00	第3部	11:30~12:30
研究発表コンテスト(※)	14:30~17:30	昼食	12:30~14:00
・プレゼンテーションの部		講評・ゲスト講演等	14:10~14:20
・ポスター発表の部		表彰式	14:30~14:50
第1部	(14:30~15:30)	優秀プレゼン発表	14:50~15:00
第2部	(16:00~17:30)	閉会行事	
生徒交流会・研修会	18:00~		

※参加者の多寡により時間に変更になる場合もあります。

※1日目の生徒交流会と同時に、課題研究に関する教員研修会を実施します。内容は教材を用いた指導のあり方および事例発表です。生徒交流会・研修会后に、教員懇親会(20:00~)を実施します。詳しくはWebをご覧ください。

9 講演

基調講演 国際連合地域開発センター (UNCRD) 所長 高瀬 千賀子 氏

演題『これから生きる君たちへのメッセージ』

プロフィール

英国サセックス大学大学院修士修了。国連工業開発機関、国連事務局等で勤務。World Summit on Sustainable Development の開催や国連経済社会局経済社会理事会の運営等に携わってきた。2012年2月より現職。

講評 (株) オープン・シティー研究所所長・元世界銀行副総裁 日下部 元雄 氏

演題『これからの社会課題にどう向き合うか (仮題)』

プロフィール

東京大学大学院修士課程(数学)卒業。同年大蔵省入省。エール大学経済学修士、IMF勤務、財務官室長、官房参事官、欧州復興開発銀行中央アジア局長、国税審議官などを経て、世界銀行職員として勤務後、副総裁(資源動員・協調融資担当)。現在、(株)オープン・シティー研究所所長。2016年春、瑞宝中綬章を受章。

10 パネルディスカッション テーマ「高校生にいま必要なこと」

パネリスト	アリソン ビール	オックスフォード大学日本事務所所長
(予定)	伊丹 利明	宮崎大学国際連携担当副学長
(50音順)	日下部 元雄	(株) オープン・シティー研究所所長
	高瀬 千賀子	国際連合地域開発センター (UNCRD) 所長
	アリソン ビール	オックスフォード大学日本事務所所長
	西橋 瑞穂	鹿児島県教育庁指導監
	益田 隆司	東京大学名誉教授、(公財) 船井情報科学振興財団
司会者	岡本 尚也	一般財団法人 Glocal Academy 代表理事

11 参加者 全国の高等学校、中等教育学校に在籍する生徒及び教員、その他、本シンポジウムに関心のある教育関係者

12 研究発表コンテストについて

- (1) 応募資格 課題研究を継続して実施する国内外の高校生 (各学校でエントリー数の制限なし)。
(2) 発表形式 発表は、プレゼンテーションの部、ポスター発表の部の2部門で行う。発表は 1～3名で行う。なお同一研究内容で、両部門で発表することはできない。なお、英語での発表を推奨する。

- (3) 発表数等 プレゼンテーションの部、ポスター発表の部ともに、1～4セクションに分けて実施する (セクション数は応募数による)。各セクションの発表数は最高で10とする。40を超えた申込みがあった場合には、書類審査を行う。

① 国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」をもとにした別紙1の「4 発表分野について」掲載の分野のうち、自分の研究に関連する分野を2つ以上選ぶ。

② 分野の応募数等により、セクションを事務局側で設定。セクション及びその発表者をシンポジウムの Web サイトにて平成29年1月16日 (月) に発表する。

- (4) 発表時間 **プレゼンテーションの部** プレゼン時間12分、質疑応答8分 計20分

ポスター発表の部 発表時間7分、質疑応答3分 計10分

※各部とも英語での発表の場合は、質疑応答も原則英語で行う。

※時間を超過しないようにすること。

- (5) 表彰 各セクションとも、それぞれの優れた発表に最優秀賞、優秀賞、優良賞を与え、表彰する。なお、プレゼンテーションの部およびポスター発表の部の最優秀賞は英語での発表から選考する。

大会参加者

① 審査員・パネリスト一覧 (敬称略)

(公財) 船井情報科学振興財団	益田 隆司	ゲスト講演, パネリスト	
(株) オープン・シティー研究所 所長、立命館アジア太平洋大学院	日下部 元雄	講評, パネリスト, プレゼン審査	
オックスフォード大学日本事務所 所長	Alison Beale	パネリスト, プレゼン審査	
宮崎大学国際連携担当副学長	伊丹 利明	パネリスト, プレゼン審査	
県高校教育課 指導監	西橋 瑞穂	パネリスト	
(株) オープン・シティー研究 所、立教大学院	日下部 笑美	プレゼン審査	
YK Global Impact、一般財団法人 国際 IT 財団	日下部 裕美子		
鹿児島大学	Mun' delanji Vestergaard		
九州大学	Edward Vickers		
関西大学	上田 正人		
在福岡アメリカ領事館広報部	宮石 建治		
一般社団法人 グローバル教育推 進プロジェクト (Gift)	木村 大輔		
鹿児島県議会議員	下鶴 隆央		
鹿児島大学工学部	Gerald Larkins		
高崎商科大学	萩原 豪		
原田学園 鹿児島情報高校	Jonathan Enns		ポスター審査
NPO 法人桜島ミュージアム	福島 大輔		
鹿児島県総合教育センター 研究 主事	常山 隆光		
原田学園鹿児島キャリアデザイン 専門学校	木藤 絹子		
原田学園鹿児島キャリアデザイン 専門学校	奥村 三菜子		
熊本県立熊本済々黌高等学校	鶴濱 正悟		
五ヶ瀬中等教育学校	西山 正三		
原田学園 鹿児島情報高校	James Nobis		

② 参加教員・生徒数，総動員数

参加教員	16 の都道府県より 22 校 40 名の参加
参加生徒（発表者）	7 の都道府県より 10 校 74 名の参加
総動員数（一般観覧含）	動員数：初日 465 名 二日目 348 名

研究発表審査結果

第2回高校生国際シンポジウム入賞者一覧

■最優秀グランプリ：谷口智海(甲南)

	スライド発表		
	分野1	分野2	分野3
最優秀賞	谷口智海 (甲南)	山内美奈 (甲南)	中村 響 (鹿児島修学館)
優秀賞	中島瑠果 (甲南)	豊島鈴 他 (甲南)	岩元美月 (甲南)
優良賞	友岡梓 (甲南)	伊島実咲 (甲南)	坂口夕芽 (甲南)
	ポスター発表		
	分野1	分野2	分野3
最優秀賞	藤田祥帆 他 (池田)	濱砂梓恩 (甲南)	児玉沙江 (甲南)
優秀賞	大久保里南 (五ヶ瀬)	大久保遼 (甲南)	甲斐文也 他 (宮崎大宮)
優良賞	小山田晃輔 他 (宮崎大宮)	内園貴子 (甲南)	齋藤桃花 等 (宮崎大宮)

アンケート結果

①質問項目

質問項目	項目
1	基調講演はいかがでしたか
2	パネルディスカッションはいかがでしたか
3	研究発表コンテストはいかがでしたか
4	教員研修会はいかがでしたか
5	講演・講評はいかがでしたか
6	ゲスト講演はいかがでしたか
7	全般について

③ 回答

参加生徒

質問項目	1	2	3	5	6
5:大変良かった	29	58	59	37	67
4:良かった	22	31	25	39	30
3:普通	39	9	6	23	5
2:あまり満足できなかった	9	2	9	3	0
1:全く満足できなかった	2	0	2	0	0

参加教員

質問項目	1	2	3	4	5	6
5:大変良かった	6	10	11	5	12	15
4:良かった	5	6	9	6	6	6
3:普通	7	2	1	3	4	2
2:あまり満足できなかった	1	0	0	0	0	0
1:全く満足できなかった	1	1	1	0	0	0

④参加生徒・教員コメント (抜粋)

I. 基調講演について

・SDGs など自分の研究に関係していながら、よく知らなかったので、貴重な機会でした。(生徒)

ii. パネルディスカッションについて

・はじめて教授や国際レベルの企業に勤めている人のパネルディスカッションを見た。話の運び方はもちろん、内容がとても経験上の重みがあり、とてもためになった。(生徒)

iii. 研究発表会について

・自身が発表し、発表に対して質問してもらえる良い機会だった。他の人の発表や英語での受け答えをしているのを見て、これからの刺激になった。(生徒)

・拝見させていただいたものは全て素晴らしかったです。指導に生かしていきます。(教員)

iv. 講評について

・研究をする上で、自分に足りていない要素がたくさん述べられていたので、とてもありがたかった。今後への意欲が湧いた。(生徒)

・大変勉強になりました。課題研究発表への具体的なアドバイスもあり、生徒にも今後の大変参考になったと思います。(教員)

v. ゲスト講演について

・益田先生のように、気になったら本を読んでもみるということにも憧れた。本を読むことで勉強になることに改めて気づき、自分も本を読んで、気になることにアプローチしていくようにしようと思う。

(生徒)

当日の様子

